

キウイフルーツ

学名：Actinidia chinensis Planch 科名：マタタビ科



キウイフルーツと言えば、表面が茶色で果肉が緑色の甘酸っぱい果物です。中国から台湾に広く分布し、ニュージーランドで改良されたマタタビ科のつる性落葉果樹です。

キウイフルーツの果実が7割程度熟したところで採取し、5mmくらいの輪切りにして乾燥させると「獼猴桃（びこうとう）」と呼ばれる生薬になり、利尿、止血などに効果があります。また生の果実は栄養価が高く、レモンと同等量のビタミンCや、体内の過剰な塩分を排泄する働きを有するカリウム、たんぱく質分解酵素のアクチニジン、色素のカロチノイドやクロロフィル、腸内環境を整える食物繊維なども含みます。カロリーも少ないため、美容に最適な果物です。

日本での経済的な栽培は1975年頃から行われるようになり、今では様々な品種がありますが、日持ちの良い「ヘイワード」種が主力です。キウイフルーツと呼ばれるようになったのは1950年代のことです。ニュージーランドの国鳥に指定されている翼のない鳥の「キウイ」に形が似ていることから名付けられたという説が一般的です。

生薬名	獼猴桃（ビコウトウ）
薬用部位	果実
薬効	利尿、止血作用
用途	風邪、扁桃腺などの高熱、浮腫などに用いる。



アカヤジオウ

学名：*Rehmanniae glutinosa* L. var. *purpurea* Makino 科名：ゴマノハグサ科



中国原産の多年草で薬用として栽培されます。温暖な気候を好み、多湿を嫌う性質があります。初夏に20 cmほどの花茎をのばし、その先に数個の紫く淡紫紅色の花を横向きにつけます。花の先端は唇のように見えますが、これはゴマノハグサ科の植物に特有な形です。

「地黄」は加工の仕方によって名前が異なり、生地黄、乾地黄、熟地黄に大別されます。地黄というと乾地黄を指します。単剤で使用することはなく、虚弱体質で貧血気味の人に補血として用いる四物湯や、不足した体力を補う十全大補湯など多くの漢方薬に配合されます。また、市販品として販売されている大正製薬のゼナ、佐藤製薬のユンケル、養命酒などにも配合されています。胃腸が弱く消化不良を起こしやすい人や、体内に水分をため込みやすい体質の人には不向きな生薬なので注意しましょう。

薬としての地黄は奈良・平安時代には導入されていましたが、栽培されるようになったのは江戸時代からといわれています。日本に野生品はなく、すべて栽培品です。

生薬名	地黄（ジオウ）	局方生薬
薬用部位	根	
薬効	強心、補血、利尿作用	
用途	強壯薬として漢方処方に配合される。 四物湯（シモツトウ）、十全大補湯（ジュウゼンタイホトウ）、 牛車腎気丸（ゴシャジンキガン）など	



ドクゼリモドキ

学名： *Ammi majus* L. 科名：セリ科



春を終えて、繊細な花を贅沢に咲かせるドクゼリモドキは迫力があります。トウキの花に似て、まるで白いレースのように見えることから「レースフラワー」と言われています。その花の形から「可憐な心」という花言葉が付けられています。一方、猛毒で危険なドクゼリにも似ているためドクゼリモドキと名付けられました。

ドクゼリモドキは日当たりが良い場所を好み、温暖な気候に恵まれた地中海沿岸を原産とする多年草で、1.5mほどの高い草丈です。アンミマユスという学名は、ギリシャ語でアンミ(砂)とマユス(巨大)の合成語で、「巨大な砂」という意味です。生薬名は「アンミ実」と言い、果実を使用します。

ドクゼリモドキは古くから皮膚治療薬として用いられています。有効成分の「アンミフリン」や「アンマリン」は乾癬や白斑治療薬の製造原料となり、皮膚病患者の救世主として注目を集める薬用植物になりました。また、WHOが薬用植物の有効性、安全性を情報提供する目的で継続して作成している刊行書にも掲載されています。一方、民間薬としては利尿、消化促進薬に用いられます。

生薬名	アンミ実
薬用部位	果実
薬効	抗微生物、鎮痙、善玉コレステロール (HDL) 上昇作用
用途	腹痛、気管支喘息、生理痛の症状に用いられる。 乾癬、白斑治療薬の製造原料